

古域

第 47 号

= 発行者 =

茨城県立江戸崎総合高等学校

同窓会広報委員会

TEL 029-892-2103

= 印刷所 =

倉沢印刷株式会社

にゃいっつ



同窓会長

山岡 恒夫

江戸崎高等学校

(昭和43年度卒)

会員の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。皆様方の同窓会に對しましてのご理解ご協力に感謝申し上げます。今年も全国各地から自然災害のニュースが続きました。被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

奈良時代に書かれた「常陸国風土記」に、茨城県は次のように書かれています。

常陸の国は、国広く、山も遙かに、田畑は肥え、広野に拓けたよき国である。海山の幸にも恵まれ、人々は安らぎ、家は満ち足りている。田を耕し、糸を紡ぐ者たちには貧しき者はいない。

左方の山では塩が取れ、右方の海では魚が捕れる。また、後方の野には桑原が広がり、前方の原には麻が栽培されている。海川山野の幸が豊かなところである。

恵まれたところにある江戸崎総合高校の生徒たちは、今年も地域社会に素晴らしい貢献を続けています。

十二月十二日には、母校の農場で生徒が栽培した野菜や草花等を販売しました。多くの人が買いに来ていました。稲敷警察署の花壇の整備をはじめ稲敷市役所や、江戸崎ショッピングセンターパンプにもきれいな花を飾り続けています。

私たちの高校の歴史は古く、一九〇七年に江戸崎町外三ヶ村組合立農学校として六月一日より授業を開始したのが始まりです。以来、十年ごと、百年の節目に記念事業をしてきました。今年度、江戸崎総合高等学校

校として開校して二十年になりましたので、記念事業として、体育館への大型スクリーンの設置、校内どこでもインターネットが使用できるようWi-Fiの整備と、記念誌「あゆみ」を発刊しました。このように私たちは、節目ごとに、改まった会場を作り、改まった挨拶を交わし、改まった気持ちで未来への計画を立て、実現への努力を誓い合っています。

この「節目の文化」は、私たち祖先が長い時間をかけて作り出してきたものです。

たとえば、私たちの周囲にある様々な物は、新品の時に最高の値打ちがあり、時間が経つにつれ値打ちが下がっていきます。しかし私たち人間は失敗しても、あるときを節目として、決意を新たにすることによって、再び発展していくことができるという考え方です。

創立二十周年を節目として茨城県立江戸崎総合高等学校がますますご発展されますことと、これから社会に巣立っていく皆さんの大いなる活躍を期待いたします。最後に、会員各位のご健康でのご活躍と母校の飛躍を祈念いたしまして、ご挨拶いたします。

創立20周年記念版

同窓会名簿の発行を 予定しています。

会員名簿は、学年ごとの横のつながりだけではなく、同窓生という世代を超えた縦のつながりをも発展させていくための、大切な同窓会活動の一環で、定期的な整備・発行が必要です。

ぜひ皆様のご協力を宜しくお願い致します。

◆事業内容

● 創立二十周年記念版 同窓会名簿発行

● 発行予定日

令和七年八月下旬

● 収録者

恩師を含め、創立から現在までの同窓生

約二七、四〇〇名

● 掲載項目

氏(旧姓) 名・〒・現住所・☎・勤務先・☎

● 名簿発行までの作業

(令和六年十一月～令和七年八月)

◆要 領

名簿購入 一冊 四、八〇〇円 ※予約限定出版

名簿作成賛助金 一口 一〇、〇〇〇円

※昨年十一月末より随時確認用のおはがきを
発送しています。

古城発行に寄せて



校長 川田 利行

同窓会のみなさまには、常日頃より本校の教育活動にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

本校に赴任して二年目を迎えております。総合学科として二十年目を迎え、節目の年に同窓会の皆様からWi・Fi環境の設備や、体育館の大型スクリーンの設置など学習環境をさらに整えていただきまして誠にありがとうございます。令和四年度に始まりました新学習指導要領の着実な実現にむけて活用させていただきます。総合学科としての学習活動は他の県立学校では味わうことのできない学びであり、昨年度は地元ゴルフクラブであるザ・インペリアルカントリークラブさんのご協力のおかげで、探究活動ワークシヨップが実現できました。新聞に掲載され本校の教育課程での学びが生かされた内容です。(資料をご覧ください) 身近な地域の魅力

や課題などを知り、地元に貢献する意識が育まれ、体験を通して得られた知識や達成感がさらに広い世界に足を踏み入る欲求が生まれてきます。その一方で、少子高齢化社会の影響を受け、中学生の数は急激に減っており二〇三〇年には茨城県内で二〇〇〇人減少が見込まれています。稲敷市内も減少は大きく教育課程を実施するうえで支障をきたすことが予見できます。本校の総合学科は地域貢献、地元で活躍する人材の育成が目標です。学びを深め、自己の持つ可能性を広げることでできる立派なカリキュラムです。教育活動のさらなる充実のために魅力ある学校づくりを推進させ、本校の魅力を地域に周知し活力ある学校となるよう、今後ともご協力ご支援をお願い申し上げます。



資料【茨城新聞 (2024.3.2)】

二十年目に思うこと

田中 智士
江戸崎総合高等学校
(平成19年度卒)

江戸崎総合高校が江戸崎高等学校と江戸崎西高等学校の統合という形で設立してから、早いものでもう二十年の節目を迎えたんですね。

新設校という事もあり、入学当初は具体的なイメージが持ちづらく、何となくぼんやりと高校生活がスタートしました。学校行事はおろか、校歌や校旗すらも未定だったの、そういった印象を持った生徒は私だけではなかったのではないのでしょうか。

ノウハウが乏しい中、手探りで熱心に指導して下さいました先生方には感謝の言葉しかありません。この場をお借りして御礼申し上げます。自分が当時の先生方の年齢に近い今だからこそ、大変なご苦労があったらと思うと、気が通じ、大人の言うことに気楽にブーイングしていた自分達はやはり若かったなと思います。

私は生徒会役員を二年間務

めた中で、特に印象深いのが江陵祭です。己の損得を抜きにして熱意を持って献身的に取り組めたことは人生において貴重な経験でした。その後も後輩の皆さんが私達の遺したものを継承・発展させていき、学校の文化として定着していることを大変嬉しく思っております。

現在、私は日本中央競馬会の外郭団体職員として働いています。営利を目的とせず公益や秩序への貢献を一義とする働き方に、高校時代の経験が大いに生かされています。

他方、プライベートでは男の子三人のパパとして子育てに奮闘する日々を送っています。通勤中に江総生を見ると懐かしく思うと共に、息子達も同じ制服を着るかもしれません。学校設立から二十年の間に未曾有の大災害や未知の感染症との闘い、社会の変容がありました。そうした困難の中にあっても、地域に根ざした教育に求められる役割は変わらないように思います。これからも末永く、地域や社会に貢献出来る人材育成に取り組んでもらいたいと思います。

最後に、皆様のご多幸とご健康をお祈り申し上げます。

より良い未来を 築くために



平澤 美和
江戸崎高等学校
(平成3年度卒)

高校時代は、生徒会活動と部活動の両方を積極的に取り組んでいました。生徒会では生徒会長として、学校行事の企画・運営や生徒の意見を学校側に伝える役割を担い、この経験を通じて、リーダーシップやチームワークの大切さを学びました。

また、部活動では演劇部に所属し、仲間と共に目標に向かって努力する喜びや達成感を味わいました。これらの活動を通じて得た経験やスキルは、私の人生において重要な基盤となっています。

卒業後、短大を経て金融機関に就職しました。入行当初は、業務の幅広さや専門知識の習得に苦労しましたが、高校時代に培った粘り強さと協調性を活かし、日々努力を重ねました。その結果、国家試験の合格や営業実績を積み上げ、現在は管理職として組織の運営に携わっています。私の役割は、金融サービス

の提供を通じて地域社会の発展に貢献することです。

特に女性の活躍推進に力を入れており、女性行員のキャリアアップ支援やワークライフバランスの向上を目指し活動しています。これにより、職場全体のダイバーシティが進み、より多様な視点からアイデアや解決策が生まれるようになりました。

また、地域のイベントやセミナーにも積極的に参加し、金融知識の普及や地域コミュニティとの連携強化を図っています。地域の皆様から信頼される存在であるためには、自分自身のスキルアップも欠かせません。そのため、自己研鑽を怠らず、常に新しい知識や技術を吸収する努力を続けています。

高校時代の経験が現在の私を形作り、社会においてもリーダーシップを発揮する基盤となりました。これからは特に、女性管理職の登用と女性の活躍を促進するための施策に力を入れています。多様性がもたらす新しい視点とアイデアは、組織全体の成長とイノベーションに繋がると信じています。

これからも地域金融機関の一員として、地域社会の発展

と、誰もが活躍出来る環境づくりを目指して頑張りたいと考えています。

皆様のご支援とご協力を賜りながら、共により良い未来を築いていきましょう。

最後に、江戸崎総合高等学校と同窓会の今後益々のご発展をお祈り申し上げます。



準備と挑戦



坂井 涼一
江戸崎総合高等学校
(平成26年度卒)

消防士になりたいとトレーニングに励んでいる生徒がいるんだよ。そして同じ志を持つて消防士になった卒業生がい

る。と恩師である鳥羽先生に思い出してもらい、今回の同窓会会報誌に寄稿する運びとなりました。

私は江戸崎総合高等学校に入学したばかりの頃は非常に痩せた体型でした。そんな自分ですが、サッカー部に所属しゴールキーパーをしていました。そんなことから、世界のサッカー選手の活躍をよく見ていましたが、筋肉質な選手が非常に多かったことから筋力トレーニングに目覚めました。その他トレーニングをする動機はいろいろありましたが、あの頃、トレーニングに目覚めた自分に感謝しています。それが功を奏し、体が資本である職業に就くことができ、それが今でも十分に活かすことが出来ています。

自分の努力一つでかけがえない命を守ることが出来る。そういう思いで現在は地域住民の為に尽力しております。幸いなことに江戸崎総合高校のトレーニングルームは設備が充実していますので、消防士としての肉体的に必要な基盤を作る事は十分可能です。

しかし、トレーニングが好きな私にも大きな壁がありました。それは勉強でした。頭も良くなければなりません。

卒業後に江戸崎総合高校に伺った際に恩師に『もっと勉強しておけば良かったです』と嘆いた経験もあります。

学校では『色々学べる環境』が整っているという事です。皆さんには私のような苦労を経験する事のないように、勉強もしつつ青春を謳歌して下さい。また、卒業後は何をやりたいのかを明確にしておくことが重要だと思います。

私は救助隊になりたくて様々な努力をして、入職四年目に救助隊になりました。幸いなこともありましたが、常に何かに挑戦でき、仲間と共に成長できる環境です。これは救助隊に限りません。救急救命士の国家資格を取得する事でも良いと思います。大切な事は挑戦することです。消防士の仕事は、それを常に可能にさせる職場ですので、しっかりと準備し採用試験に挑戦してみてください。皆さんがそれぞれの道に進む事を卒業生として応援しています。また、消防士を目指している人の努力が結実し、共に成長しながら働ける日が来ることを楽しみにしています。

最後に、江戸崎総合高等学校と同窓会の皆様の今後益々の活躍を祈念いたします。

恩師・旧友と語らう

茨城県立江戸崎高等学校

農業科三年二組を卒業して五十五年が経った、令和六年八月三日（土）、午前十一時より、稲敷市古渡にある、お食事処「旅館喜久」にて同窓会を開催しました。

卒業時、担任であった三好（当時は大塚）善道先生も、お元気な姿で出席していただ

きました。

高校時代の思い出話や、近況を語り合い、楽しい時間を過ごしました。

農家の後継ぎの多いクラスでしたので、農家の減少も話題になりましたが、大規模な農業経営者も何人もおり、さすがは、江戸崎高校農業科と思える集まりでした。



学び舎の変遷

皆さんが在学中の頃、校舎の位置・形、どこに何があったか、覚えていますか？

当時の懐かしい写真を集めましたので、あの頃にタイムスリップしてみてください。

①昭和三十一年頃の

江戸崎高等学校

木造平屋造りの校舎ですね。中央に四棟を繋ぐ渡り廊下が確認できます。

グラウンドでは生徒による『江高』の人文字が見えます。

バレー・バスケット・テニスの各コートも確認出来ます。



②昭和四十一年頃の

江戸崎高等学校

体育館が建てられ、校舎も増えていますね。

当時、出来たばかりの体育館でNHK番組の「のど自慢」もテレビ中継されました。



④昭和六十一年頃の

江戸崎高等学校

グラウンド周りに防球ネットが敷設されています。



③昭和五十一年頃の

江戸崎高等学校

校舎も木造平屋造りから鉄筋コンクリート造りの四階建ての永久校舎となりプールも確認できます。

左上には出来たばかりの県道四十九号線が見えます。



⑤昭和五十六年頃の

江戸崎西高等学校

学級増が見込まれ本館が増築された頃です。周りは畑や林だけで建物とはなく、西高がポツンとあるだけでした。



江戸崎西高等学校があった場所は、現在稲敷市庁舎があり、市庁舎の南側には西高の跡地記念碑が建立されています。

実習教室棟も完成し、鉄筋コンクリート造りの校舎が三棟となりました。
出来たばかりの弓道場や同窓会館も確認できます。

年次だより

一年間を振り返って

一年次主任 名和 俊之

四月に真新しい制服に身を包み、期待と不安を胸に入學した百四十四名の一年次生は、今では学校にも慣れ、勉強や部活動などに励んでいます。また、次年度の系列を決定し、二年次生となる準備を進めています。

一年次では「産業社会と人間」の授業を通して、自己の生き方や在り方について考え、系列や職業など進路選択に向けて学んできました。

中でも、系列説明会や体験授業を通し、二年次以降の学校生活について考え、進路ガイダンスや系列別バス見学会を行い、卒業後の自らの進む道を考えることができたと思います。

総合的な探究の時間では、これからの人生を生き抜くために必要な力である、課題を発見し、自分で解決する事が出来る様に、二年次以降も引き続き取り組んでいきます。

「一年生は挨拶がしっかりできる」「集会時に整列が早

くて驚いた」など、年次外の教職員や外部からのお招きした講師の先生などにお褒めの言葉を頂くことがあります。

生徒たちの良い所を伸ばし、これから社会で生きていく時に必要な資質、能力を育んでいきたいと思っています。例えば、「基本的生活習慣を整える」「制服を正しく着用する」「自分本位でなく、相手の立場に立つて考える」などです。高校は義務教育でなく、大人の入り口ですので、社会生活で必要な事を高校で身に付けてほしいと思います。

二年次からはそれぞれの系列での学びが始まります。より専門的な内容の学習を通して、将来の生き方のついて考える機会も増えると思います。また、修学旅行をはじめとして、思い出を作ることができる行事もあります。一つひとつの授業や行事を大切に

して、時や場合、状況を弁えて、やるべき事を見据えて取り組んでほしいと思います。

二年次より

二年次主任 松下 友美

高校二年生は、進路を具体的に考える時期であり、自分の目標や夢に向き合う大切な一年です。本校では、二年次より、四つの系列に分かれ、系列ごとに特色のある授業が展開されています。その過程で、生徒一人ひとりの実態に合わせた学びを提供できるよう、きめ細やかな学習の支援をしています。

十二月一日(日)からは、三泊四日で沖縄方面への修学旅行を実施しました。平和学習や班別行動を通じて、文化への理解を深めるとともに、仲間と共に貴重な時間を共有することで、自主性と協調性を培うことが出来たように思います。また、長時間の集団生活を通じて仲間との距離感を考えるきっかけや、新たな気づきを得る場面もありました。今後の学校生活や進路選択において、かけがえのない糧となることでしょう。

そして、生徒たちが無事にこの旅行を終えることができたのは、保護者の皆様のご理解と、日頃からの支えがあったからこそです。改めて感謝申し上げます。また、思春期ならではの悩みや不安を抱える生徒も少なくありません。そのため、生徒一人ひとりの

声に耳を傾け、彼らの「もう一步」を後押しできるよう努めています。保護者の皆様には、お子様の些細な変化にも気を留めていただき学校との連携を密にさせていただければ幸いです。学校生活で培った力が将来の道を切り拓く糧となるよう、年次職員一丸となって支援してまいります。

三年間の総決算！

三年次主任 篠崎 美穂

みなさん、こんにちは。生徒たちの元気に負けてられないと日々感じています。

さて、まずは一・二年次を振り返りましょう。

高校生活に期待と不安を抱えスタートした一年生。それもつかの間、学習の習得や人間関係で悩む生徒が続出。

生徒たちは先生方と会話を重ねながら、どうにか一年間走り切りました。

各系列に分かれてスタートした二年生。それぞれの系列で特徴を活かした学習が行われ、生徒たちは生き生きと学校生活を送りました。沖縄への修学旅行や東京での研修では、それぞれ貴重な経験ができた良い思い出となりました。学校生活にも慣れ、自分はどう

んな大人になりたいのか考え出した時期でもありました。

進路を意識し、高校生最高年次となった三年生。ペー스는違えども、生徒たちは自分の進路を考え、進路活動を一生懸命行いました。目標が決まるまでは先生方と一緒に納得のいくまで進路を考えることが出来たと思います。面接練習では慣れない所作に苦戦し、人前で話すことに緊張していた生徒が練習を重ね、上手になっていくところを見て、努力は裏切らないと実感しました。進学・就職ともに、苦しみ努力したからこそ、やり遂げた喜びを味わうことが出来たのではないでしょう。

「人生は思い通りにならないことばかり・・・その原因は自分が生み出している」これは仏教の教えです。生徒の皆さんはこれからの人生、思い通りにならないことがあつたら、物事にこだわらず、

煩惱(疑い、プライド、欲望など)を消し去り、思いやりを持って人とのつながりを大切にしてほしいと思います。

最後になりますが、同窓会の皆様には今後も変わらぬご支援とご協力を頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

校内だより

福祉系列

福祉系列主任

水田 久雄

本系列は、高齢者福祉（介護分野）を中心に授業を展開しています。地域社会のニーズ、「少子高齢社会」に対応するべく人財（人は財産である、人こそが宝という考えから「材」ではなく「財」を用いています）育成に力を注いでいます。未来ある生徒が本系列で学び卒業後、地域社会で人財として活躍してもらうことを願い日々、生徒と向かい合っています。

福祉とは、「福」＝「幸せ」、「祉」＝「幸せ」の漢字の組み合わせから成り立っています。この言葉を説明する際は「幸せ」×「幸せ」＝「自分の幸せ」「他者の幸せ」「他者の幸せ」は「自分の幸せ」だと伝えていきます。それは、「自利利他」の考えに基づいている部分があります。私たちは、人との触れ合いのなかで、相手の「こころ」を受け取り、自分の「こころ」を伝えることができます。介護総合



実習の授業の中で、高齢者施設の利用者の方から「ありがとう」と言われた生徒は「力を貰った」「嬉しかった」「やりがいがあった」などの感想を聴くことが多いです。生徒には、利用者の方に自分の方から「あなたと出会えたこと、関わったことにありがとう」と伝えられる人になって欲しいと話しています。福祉の仕事は、相手があつて初めて成立します。感謝の気持ちを言葉や態度で伝えられる、この系列で学んだ専門的知識や技術をもって地域社会で活躍することが出来る「人財」、福祉の「地産地消」に今後も取り組んでいきたいと思えます。そのためにも、卒業生である諸先輩方のお力を是非ともお借りし、地域社会へ貢献することが出来る系列でありたいと考えています。

最後になりますが、日頃から生徒の為に保護者の皆様、地域社会の皆様、同窓会の皆様方のご支援・ご協力に深く感謝申し上げますとともに、皆様方の今後益々の活躍を祈念いたします。

三年次進路状況報告

進路指導部長

栗山 季幸

新型コロナウイルスの流行もほぼ終息し、求人数もここ四年間は前年比で約一・二倍の求人頂くことができ、本年はコロナ禍前以上の求人数を頂く事ができました。

結果については、学校紹介による就職希望者が一回目に六十二名が受験しましたが、内定者は五十二名でした。就職内定率は八十四％となり、昨年度より五ポイント低い状況になっていますが、その後の試験で九名の内定を頂く事ができました。また、今年度は、公務員試験において、茨城県小中学校事務と自衛官に各一名合格する事ができました。まだ就職活動中の生徒もおりますが、卒業までに就職希望者全員の内定を目指しております。

進学については、進学希望者四十六名に対し、四年制大学に十一名、専門学校に三十四名が合格しています。今年度は、推薦入試や総合型選抜（AO）入試にて全員が受験しており、あと一名の結果を待つ状況になっております。

二〇二四年度 進路状況

主な進学先

主な就職先

江戸川大学	アイリスオーヤマ株式会社
開智国際大学	あじたま販売株式会社
川村学園女子大学	一般社団法人茨城県交通安全協会
中央学院大学	ANAスカイサービス株式会社
流通経済大学	王子コンテナ株式会社
麗澤大学	関東名鉄運輸株式会社
茨城県立土浦産業技術専門学校	株式会社 関電工
茨城県立農業大学校	日本中央競馬会
アジア動物専門学校	桂建設株式会社
アール医療福祉専門学校	金乃台カントリークラブ
ESPエンタテインメント東京	株式会社 技研
いばらき動物専門学校	三栄鋼材株式会社
大原簿記法律専門学校	株式会社 桜ゴルフオペレーション
国際トラベルホテルブライダル専門学校	社台ファーム
つくば栄養医療調理製菓専門学校	株式会社 SHOEI
筑波研究学園専門学校	株式会社 ジョイフル本田
つくば国際ベッソン専門学校	城東テクノ株式会社
つくばビジネスカレッジ専門学校	つくばセントラル病院
土浦協同病院付属看護専門学校	株式会社 ツムラ
東京アニメーションカレッジ専門学校	株式会社 東都観光企業総括本社
東京スクールオブミュージック&ダンス専門学校	成田空港警備株式会社
東京電子専門学校	ネスレ日本株式会社
東京福祉保育専門学校	ノーザンファーム
東京リゾート&スポーツ専門学校	八紘電子株式会社
成田航空ビジネス専門学校	PGM株式会社 阿見ゴルフクラブ
新潟公務員専門学校	富士物流サポート株式会社
日本自動車大学校	株式会社 フジシール
日本電子専門学校	特別養護老人ホーム 宝永館
福岡ECO動物海洋専門学校	株式会社 マルタツ
宮本看護専門学校	三菱商事ライフサイエンス株式会社
専門学校 水戸自動車大学校	森尾電機株式会社
ユニバーサル美容専門学校	ヤンマーアグリジャパン株式会社
早稲田美容専門学校	雪印メグミルク株式会社
	株式会社 ランドロームジャパン



(二〇二四年十二月二十四日現在)

他十六社

江戸崎

力人(ちからびと)

渉外部長

檜垣 健一

渉外部として今年度のPTA活動は、昨年に引き続き、会長を中心として順調に各取り組み・イベントが進められた一年でした。四月の入学式から始まり、五月のPTA総会、七月には関東高等学校PTA連合会千葉大会(会場：幕張メッセ)、八月には全国高等学校PTA連合会茨城大会(水戸)。十月にはPTA研修旅行(東京スカイツリー)を開催し、PTA役員の皆様の熱量、関係職員とのチームワークの高まり、アイデア沢山、笑顔の活動になり、翌年に繋がる活動となりました。また、毎月の登校指導、江戸崎祇園祭巡回。広報誌「雁が音」発行なども安定的に活動してまいりました。生徒とPTA、教員をつなぐものとなりました。

平行して、生徒の学校活動も授業ではスマホやタブレットを駆使したものが更に進展してきたと感じます。通常の学校生活に戻り、各行事に加え、全校野球応援、沖縄への修学旅行も問題なく執り行

ました。

江戸崎総合高等学校は創立二十周年を迎えました。「生徒たちが喜ぶ活動支援とは?」「生徒たちの安心安全な生活サポートを」変化の大きい日々を送りながらも、できる限り進歩をしながら、学校現場や各家庭で抱える問題について、子どもを取り巻く大人たちで共有し、共に考える場をつくること。「保護者と学校がすべての子供たちの人としての成長」を一緒に追い求めていること」PTAの皆さんと気持ちを一つにしています。

最後になりますが、今年の卒業生を加えた同窓会の皆様のご健勝を祈念しまして、ご挨拶とさせていただきます。



今年度の学校行事

特別活動部長

大滝 慶人

今年度は五年ぶりの全校でのクラスマッチが最も大きなイベントでした。その他、例年通りの行事を行いながら校内の文化祭を一月末に実施となっています。

十月には五年ぶりに全校でのクラスマッチを二日間に渡って行いました。一日目は球技種目とeスポーツを行いました。他年次と試合をするという普段味わうことのできない緊張感を感じながらも、楽しみながら勝ちを目指し姿が印象的でした。二日目は、綱引き、棒引き、障害物競走、部活動対抗リレー、クラス対抗リレーを行いました。クラス全体で勝ちを目指し、勝つ時には喜び、負けた時には悔しがる様子は普段の学校生活では見ることができない貴重な時間でした。

七月には全校野球応援を実施しました。日程が雨天の影響で延期したことで希望者での応援となりましたが、参加した生徒それぞれが鋭刺とプレーする選手たちに声援を送っている姿が印象的でした。野球応援は全校で一つのこと

に取り組むことができる数少ない行事です。全員が江戸崎総合高校の一員として力になりました。

今後も生徒の思い出に残る学校行事を企画・運営していきたいと思っています。

今後とも同窓会の皆様には生徒たちの活躍を応援していただけたら幸いです。

一人一人の生徒のために

生徒指導部長

坂本 武司

今年度より生徒指導主事の大役を仰せつかりました。試行錯誤の日々を送っていると

本校に赴任して四年目となりますが、赴任当時は新型コロナウイルスの流行の真只中であつたことや世の中の大きな変化が重なった時期でもありました。その後、コロナも大幅に収束し、以前の日常に戻りつつある現在ですが、生徒一人一人の状況も世の中の変化と同様に大きく変化をしていると実感しております。

本年度は多くの学校行事や集会等、コロナ以前の形で実施をすることができました。特にクラスマッチでは四年ぶりに全校での実施となり、今

までに見ることができなかった新たな生徒の様子を知ることが出来ました。

我々教職員は、生徒が安心安全のもと充実した学校生活を送りながら、自立を目指し、一人一人として自信を持って卒業していくことができるよう、日々の教育活動にあたる必要性があると強く感じております。生徒も我々教職員も含め、人は誰もがかけがえない存在であり、その人生はその人間にしか歩むことができないものです。一度しかない人生をより豊かに、より幸せに送るために、我々教職員は生徒一人一人に成長してほしいと切に願っております。そして願うと共に厳しくも生徒への愛情や熱意を伝え続けて参りたいと思っています。

前身の江戸崎高等学校から数えると百年以上の歴史を誇る本校の伝統や教育理念を継承しながらも、我々教職員が時代の変化を敏感に察知し、生徒自身が卒業後にそれらの変化に対応することができるよう、多種多様な視点を持つて教育活動に取り組んでいきたいと考えております。

同窓会の皆様には今後とも、ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い致します。

書籍のご案内

今、同窓会で在庫している書籍等を紹介致します。

『古城百年』

創立百周年記念誌として発行された、江戸崎高等学校の歴史を語る上で最も貴重なバ イブル的冊子です。

明治四十年に、江戸崎町外三ヶ村組合立農学校が古城ヶ丘に開校してから百年、千項を超える読み応えある、正に歴史を凝縮した至極の一冊。



※ここで紹介しております三冊全て同窓会にて在庫していますので、購入を希望される方がおりましたら、江戸崎総合高等学校内同窓会事務局までお申し込み下さい。

『太平洋戦争下 農学校生の日記』

江戸崎高等学校の教員だった松岡齊先生が当時の生徒達が残した日記を元に編纂した本となっております。

太平洋戦争時に高校生だった皆さんが青春時代をどう過ごしてきたのか、非常に貴重な資料的冊子となっております。



『アルバムに見る 農学校の昭和史』

同じく松岡先生が勤務していた当時、倉庫に眠っていた古びたアルバムと写真を見つけました。それを複写プリントし保存していたものを編集したものです。



当時の生徒達が着用してる制服や実習授業風景、戦時中の軍事訓練の様子、また農業以外の副業教育の写真等では農業以外にも副収入を得られるよう、炭作り・竹籠作り・味噌・醤油・豆腐作り・椎茸栽培等、様々な指導を受け、簡単な作業は自分で出来るよう、充実した実習授業が行われていた様子がわかります。皆さんのお爺さん・お父さんが卒業生なら、器用に何でも自分で出来るのは、この実習授業の賜物でしょうか。



令和七年度事業計画(案)

校内幹事会	随時
本部役員会	
本年度事業について	七月下旬
本部役員会	
会報誌編集委員会	十一月下旬
本部役員会	
会報誌編集委員会	一月下旬
同窓会入会式	二月下旬
卒業記念品贈呈	二月下旬
会報誌「古城」第四十八号発行	二月下旬
本部役員会	
会計監査	三月上旬
同窓会代議員総会	三月下旬

本部役員

会長	山岡恒夫
副会長	根本弘一
〃	松本博志
〃	内埜知美
〃	川田利行
〃	岡田智守
〃	田中智士
〃	大島居良行
〃	徳田好廣
〃	松田由雄
〃	鳥羽裕史
〃	水野裕史
事務局	

編集後記

年が変わり、早二ヶ月が過ぎました。既に一年の六分の一が終わってしまった事に、妙な焦りを感じるのは、まだ早すぎでしょうか・・・。

さて、昨年二〇二四年は皆さんにとってどのような一年でしたでしょうか？

新年初日の一月一日、能登地方で最大震度七の地震が発生しました。二〇二四年のスタートは衝撃的なニュースから始まりました。そして、九月には同じく能登半島を集中豪雨災害が襲いました。夏の暑さも十月頃まで真夏日が観測されるほどの異常気象となり、日本から四季が無くなってしまうのではと心配になる程の暑い年でした。

そしてスポーツ界も大変盛り上がりました。パリオリンピック・パラリンピックでの日本人選手達の素晴らしい活躍が数多く見られました。

MLB大谷翔平選手が五十四本塁打・五十九盗塁を達成しました。そして、ワールドシリーズで見事優勝しました。さて、二〇二五年はどのような一年になるのでしょうか。同窓生の皆様方に幸多い一年となるよう祈念致します。③